

和歌山信愛女子短期大学 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

【全学】

和歌山信愛女子短期大学では、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で明記している人材の育成のために、以下の方針で教育課程(カリキュラム)を編成・実施する。

I. 教育課程編成の方針

1. 本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果を身に付けるため、共通教養科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実技・実験・実習科目を適切に組み合わせた授業科目を展開する。
2. 共通教養科目群に、「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」「地域を支える力」の4領域を設ける。
3. 資格取得に必要な専門的な知識と技能を体系的に学べるように、専門教育科目群を配置する。
4. 全ての科目には科目ナンバリングコードを割り当て、カリキュラムツリーと共に、各科目間の体系性を分かりやすく明示する。
5. 1年次前期を「基礎力の育成」、1年次後期を「専門力の育成」、2年次前期を「実践力の育成」、2年次後期を「総合力の育成と評価」の時期とし、適切な科目を配置する。

II. 教育課程実施の方針

○ 教育内容

1. 共通教養科目群の領域「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」の科目群では、キリスト教の愛の精神に基づいて、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性と高い教養を兼ね備え、地域社会で幅広く活躍する女性に必要な以下の学修成果の修得を目指す。

「信愛のこころ」科目群の学修成果

- ① 本学の建学の精神の理解を通して、キリスト教的価値観に基づく愛の実践を身に付け、自他共に一人ひとりを大切にできる「キリスト教的倫理観」

「社会を見通す力」科目群の学修成果

- ① 多様な視点と広い視野を身につけ、未知の事態や新しい状況に的確に対応していくことができる「教養・知性」
- ② 多様な課題を正しく把握・分析し、適切な解決策を立てて実行できるとともに、その結果を検証し、計画の見直しや次の計画に反映することができる「論理的思考力・問題解決力」
- ③ 課題解決のために、情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析し、モラルに則って適切に活用することができる「情報収集・分析力」

「人とつながる力」科目群の学修成果

- ① 多様な考えや文化的背景を持つ人々との関わりの中で、相手の主張を聞き入れ、その気持ちを理解できるとともに、自分の考えや思いを明確に伝え、有効な人間関係を築くことができる「コミュニケーション力」

ーシヨンスキル」

2. 共通教養科目群の領域「地域を支える力」と各学科専攻の専門教育科目群では、地域社会の一員としての自覚と責任感を有し、真摯な姿勢と高いコミュニケーション能力で、地域をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる社会人に必要な以下の学修成果の修得を目指す。
 - ① 地域社会の一員としての意識を持ち、地域の発展のために積極的に貢献できる「地域課題解決力」
 - ② 周囲の人々と良好な人間関係を構築し、協調・協働して物事を行うことができるとともに、時にはリーダーとして周囲をまとめ、目標実現に向けた方向性を示すことができる「チームワーク・リーダーシップ」
 - ③ 自律・自立して学び続ける態度を身に付けるとともに、自らを律して行動できる「生涯学習力と自己管理力」
3. 本学の専門教育科目群では、職業人としてその使命を理解し、専門的知識と技能を背景とした高い実践力と創造力で、現代社会の多様な問題解決に自ら率先して取り組むことができる人材に必要な学修成果の修得を目指す。
4. 未知の課題に直面しても、これまでの学修で身に付けた知識・技能・態度等を総合的に活用して新たなアイデアを創出し、主体的に課題解決にあたることができる創造的思考力を養うために、学外実習科目やゼミ形式の卒業研究科目を配置する。
5. 高校での学びと大学での学びをつなげる初年次教育の科目として、共通教養科目群の「基礎演習」を1年前期に配置し、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする。
6. 自らのキャリアを主体的に形成する態度を身につけるキャリア教育の科目として「キャリアデザイン」を専門科目群に配置する。
7. 地域に関する学修を含む科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
8. 実務家教員による授業科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
9. 各科目が修得を目指す学修成果をカリキュラムマップに明示する。
10. 学生が年間に履修登録できる単位数に上限を設け、課程外での学習時間を確保して単位の実質化を図る。

○ 教育方法

1. シラバスに、関連するDPと学修成果、アクティブラーニング、地域の学修、授業の概要とキーワード、実務経験と授業内容、学生の到達目標、授業のテーマ及び内容、授業計画、評価の割合と観点、教科書及び参考書、課題・試験等のフィードバック、予習・復習の内容と時間、免許・資格、受講要件、オフィスアワーを明確に示し、周知する。
2. 学生の主体的な学びを促すために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。
3. 学内 Wi-Fi 及び Google Classroom の利用により、ICT を活用した教育方法を積極的に取り入れる。
4. 多様なメディアを高度に利用した授業科目を配置し、30 単位を超えない範囲で、教室等以外の場所で履修することを可能にする。
5. 学修成果可視化システムを用いた学修ポートフォリオにより、学生は学修成果の到達状況を自己評価

すると共に、学修計画の振り返りと目標設定を行う。

III. 学修成果の評価

本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果の修得状況を、本学のアセスメントポリシーに規定する以下の方法により把握し、評価する。

- ① 成績評価のガイドラインに基づき設定された、各科目のシラバスに示す評価方法と配点比率に基づく成績評価
- ② GPA
- ③ 単位修得状況
- ④ 学修ポートフォリオ
- ⑤ 学生生活調査の結果
- ⑥ 資格・免許取得状況
- ⑦ 卒業率・学位授与数
- ⑧ 就職率・進学率・就職先
- ⑨ 公務員採用試験合格者数

【生活文化学科生活文化専攻】

生活文化学科生活文化専攻では、本学科専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で明記している人材の育成のために、以下の方針で教育課程(カリキュラム)を編成・実施する。

I. 教育課程編成の方針

1. 本学科専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果を身に付けるため、共通教養科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実技・実験・実習科目を適切に組み合わせた授業科目を展開する。
2. 共通教養科目群に、「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」「地域を支える力」の4領域を設ける。
3. 専門教育科目群に、「ライフデザイン」「情報」「医療・介護・福祉」「キャリアデザイン」「地域社会と文化」「卒業研究」の6領域を設ける。
4. 専門教育科目群に、秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)、情報処理士、上級情報処理士、フードコーディネーター3級取得に必要な科目を体系的に配置する。
5. 全ての科目には科目ナンバリングコードを割り当て、カリキュラムツリーと共に、各科目間の体系性を分かりやすく明示する。
6. 1年次前期を「基礎力の育成」、1年次後期を「専門力の育成」、2年次前期を「実践力の育成」、2年次後期を「総合力の育成と評価」の時期とし、適切な科目を配置する。

II. 教育課程実施の方針

○ 教育内容

1. 共通教養科目群の領域「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」の科目群では、キリスト教の愛の精神に基づいて、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性と高い教養を兼ね備え、地域社会で幅広く活躍する女性に必要な以下の学修成果の修得を目指す。

「信愛のこころ」科目群の学修成果

- ① 本学の建学の精神の理解を通して、キリスト教的価値観に基づく愛の実践を身に付け、自他共に一人ひとりを大切にできる「キリスト教的倫理観」

「社会を見通す力」科目群の学修成果

- ① 多様な視点と広い視野を身につけ、未知の事態や新しい状況に的確に対応していくことができる「教養・知性」
- ② 多様な課題を正しく把握・分析し、適切な解決策を立てて実行できるとともに、その結果を検証し、計画の見直しや次の計画に反映することができる「論理的思考力・問題解決力」
- ③ 課題解決のために、情報通信技術 (ICT) を用いて、多様な情報を収集・分析し、モラルに則って適切に活用することができる「情報収集・分析力」

「人とつながる力」科目群の学修成果

- ① 多様な考えや文化的背景を持つ人々との関わりの中で、相手の主張を聞き入れ、その気持ちを理解できるとともに、自分の考えや思いを明確に伝え、有効な人間関係を築くことができる「コミュニケーションスキル」

2. 共通教養科目群の領域「地域を支える力」と専門教育科目群では、地域社会の一員としての自覚と責任感を有し、真摯な姿勢と高いコミュニケーション能力で、地域をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる社会人に必要な以下の学修成果の修得を目指す。

- ① 地域社会の一員としての意識を持ち、地域の発展のために積極的に貢献できる「地域課題解決力」
- ② 周囲の人々と良好な人間関係を構築し、協調・協働して物事を行うことができるとともに、時にはリーダーとして周囲をまとめ、目標実現に向けた方向性を示すことができる「チームワーク・リーダーシップ」
- ③ 自律・自立して学び続ける態度を身に付けるとともに、自らを律して行動できる「生涯学習力と自己管理力」

3. 専門教育科目群では、自らの個性を発揮して、地域社会で幅広く活躍する職業人に求められる以下の学修成果の修得を目指す。

「ライフデザイン」科目群の学修成果

- ① 豊かな生活の場をつくり家庭と地域をつなげるための「生活に関する幅広い知識」
- ② 自己の感性や創造力を駆使し、日常生活の中から新しい視点や価値観を発見することができる「感性豊かで創造的なデザイン力」

「情報」科目群の学修成果

- ① 情報機器を積極的に活用し、数量的な把握や評価に基づき、情報に関する課題についての的確な考察ができる「情報に関する技能」

「医療・介護・福祉」科目群の学修成果

- ① 「生活に関する幅広い知識」
- ② 社会保障の構造や機能について理解し、変化する社会に対応しながら医療従事者として社会貢献できる「医療・介護・福祉に関する技能」

「キャリアデザイン」科目群の学修成果

- ① 社会人として、周囲と良好な関係を築くための「職業に関する幅広い知識」
- ② 「地域課題解決力」

「地域社会と文化」科目群の学修成果

- ① 主体的な姿勢で問題解決に取り組むための「文化と社会に関する知識・理解」
 - ② 「地域課題解決力」
4. ビジネス社会や家庭で起こる諸問題に臨機応変に対応し、多様な課題に対し主体的に問題解決に取り組むことができる創造的思考力を持った人材を育成するために、生活文化ゼミを配置する。
 5. 高校での学びと大学での学びをつなげる初年次教育の科目として、共通教養科目群の「基礎演習」を1年前期に配置し、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする。
 6. 自らのキャリアを主体的に形成する態度を身につけるキャリア教育の科目として「キャリアデザイン」を専門科目群に配置する。
 7. 地域に関する学修を含む科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
 8. 実務家教員による授業科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
 9. 各科目が修得を目指す学修成果をカリキュラムマップに明示する。
 10. 学生が年間に履修登録できる単位数に上限を設け、課程外での学習時間を確保して単位の実質化を図る。

○ 教育方法

1. シラバスに、関連するDPと学修成果、アクティブラーニング、地域の学修、授業の概要とキーワード、実務経験と授業内容、学生の到達目標、授業のテーマ及び内容、授業計画、評価の割合と観点、教科書及び参考書、課題・試験等のフィードバック、予習・復習の内容と時間、免許・資格、受講要件、オフィスアワーを明確に示し、周知する。
2. 学生の主体的な学びを促すために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。
3. 学内 Wi-Fi 及び Google Classroom の利用により、ICT を活用した教育方法を積極的に取り入れる。
4. 多様なメディアを高度に利用した授業科目を配置し、30 単位を超えない範囲で、教室等以外の場所で履修することを可能にする。
5. 学修成果可視化システムを用いた学修ポートフォリオにより、学生は学修成果の到達状況を自己評価すると共に、学修計画の振り返りと目標設定を行う。

III. 学修成果の評価

本学科専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果の修得状況を、本学

のアセスメントポリシーに規定する以下の方法により把握し、評価する。

- ① 成績評価のガイドラインに基づき設定された、各科目のシラバスに示す評価方法と配点比率に基づく成績評価
- ② GPA
- ③ 単位修得状況
- ④ 学修ポートフォリオ
- ⑤ 学生生活調査の結果
- ⑥ 資格・免許取得状況
- ⑦ 卒業率・学位授与数
- ⑧ 就職率・進学率・就職先
- ⑨ 公務員採用試験合格者数

【生活文化学科食物栄養専攻】

生活文化学科食物栄養専攻では、本学科専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で明記している人材の育成のために、以下の方針で教育課程(カリキュラム)を編成・実施する。

I. 教育課程編成の方針

1. 本学科専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果を身に付けるため、共通教養科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実技・実験・実習科目を適切に組み合わせた授業科目を展開する。
2. 共通教養科目群に、「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」「地域を支える力」の4領域を設ける。
3. 専門教育科目群に、「社会生活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」「医療」「食育」「食のデザイン」「地域とキャリア」「卒業研究」の11領域を設ける。
4. 専門科目群に、栄養士養成課程のカリキュラムを設けると共に、医療秘書実務士やフードコーディネーター3級取得に必要な科目を体系的に配置する。
5. 全ての科目には科目ナンバリングコードを割り当て、カリキュラムツリーと共に、各科目間の体系性を分かりやすく明示する。
6. 1年次前期を「基礎力の育成」、1年次後期を「専門力の育成」、2年次前期を「実践力の育成」、2年次後期を「総合力の育成と評価」の時期とし、適切な科目を配置する。

II. 教育課程実施の方針

○ 教育内容

1. 共通教養科目群の領域「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」の科目群では、キリスト教の愛の精神に基づいて、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性と高い教養を兼ね備え、地域社会で幅広く活躍する女性に必要な以下の学修成果の修得を目指す。

「信愛のこころ」科目群の学修成果

- ① 本学の建学の精神の理解を通して、キリスト教的価値観に基づく愛の実践を身に付け、自他共に一人ひとりを大切にできる「キリスト教的倫理観」

「社会を見通す力」科目群の学修成果

- ① 多様な視点と広い視野を身につけ、未知の事態や新しい状況に的確に対応していくことができる「教養・知性」
- ② 多様な課題を正しく把握・分析し、適切な解決策を立てて実行できるとともに、その結果を検証し、計画の見直しや次の計画に反映することができる「論理的思考力・問題解決力」
- ③ 課題解決のために、情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析し、モラルに則って適切に活用することができる「情報収集・分析力」

「人とつながる力」科目群の学修成果

- ① 多様な考えや文化的背景を持つ人々との関わりの中で、相手の主張を聞き入れ、その気持ちを理解できるとともに、自分の考えや思いを明確に伝え、有効な人間関係を築くことができる「コミュニケーションスキル」
2. 共通教養科目群の領域「地域を支える力」と専門教育科目群では、地域社会の一員としての自覚と責任感を有し、真摯な姿勢と高いコミュニケーション能力で、地域をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる社会人に必要な以下の学修成果の修得を目指す。
- ① 地域社会の一員としての意識を持ち、地域の発展のために積極的に貢献できる「地域課題解決力」
 - ② 周囲の人々と良好な人間関係を構築し、協調・協働して物事を行うことができるとともに、時にはリーダーとして周囲をまとめ、目標実現に向けた方向性を示すことができる「チームワーク・リーダーシップ」
 - ③ 自律・自立して学び続ける態度を身に付けるとともに、自らを律して行動できる「生涯学習力と自己管理力」
3. 専門教育科目群では、食と医療の分野で活躍する職業人に求められる以下の学修成果の修得を目指す。

「社会生活と健康」科目群の学修成果

- ① 社会や環境と健康との関係を十分に理解して、保健・医療・福祉・介護システムの概要について根拠を示して説明できる「社会生活と健康、医療と福祉に関する知識・理解」

「人体の構造と機能」科目群の学修成果

- ① 生体構成成分、細胞、組織、臓器・器官、器官系および個体のレベルで人体の構造と機能を十分に理解して、身体活動や環境変化に対する人体の適応について説明できる「人体の構造と機能に関する知識・理解」

「食品と衛生」科目群の学修成果

- ① 食品の各種成分の栄養特性、食品の安全性、衛生管理の方法について十分に理解して、的確に説明することができる「食品と衛生に関する知識・理解」
- ② 食品加工の原理およびその食品成分の変化について理解し、食物の取り扱いができるとともに、食

品の安全性の重要性を十分に認識し、適切な衛生管理ができる「食品と衛生に関する技能」

「栄養と健康」科目群の学修成果

- ① 栄養とは何か、その意義と栄養素の代謝及び生理的意義を十分に理解し、性、年齢、生活・健康状態等における栄養生理的特徴及び各種疾患における基本的な食事療法についての的確に説明できる「栄養と健康に関する知識・理解」
- ② 対象者のライフステージや身体・精神的状況、価値観、社会的背景等の特徴、行動変容に関する理論等を十分に理解して、マネジメントサイクルに基づいた適切な栄養教育(指導)ができる「栄養の教育・指導に関する技能・表現」

「栄養の指導」科目群の学修成果

- ① 個人、集団及び地域レベルでの栄養教育(指導)の基本的役割、栄養に関する各種統計について十分に理解して、基本的な栄養教育(指導)の方法についての的確に説明できる「栄養の教育・指導に関する知識・理解」
- ② 「栄養の教育・指導に関する技能・表現」

「給食の運営」科目群(学外実習科目を除く)の学修成果

- ① 食事の計画や調理を含めた給食サービス提供、食の開発・演出・運営の意義とねらいについて十分に理解して、的確に説明できる「給食の運営と食のデザインに関する知識・理解」
- ② 対象者に応じた安全でおいしい食事を提供することができるとともに、食の開発・演出・運営を通じて、食生活の創造・改善を提案することができる「給食の運営と食のデザインに関する技能・表現」

「医療」科目群(学外実習科目を除く)の学修成果

- ① 「社会生活と健康、医療と福祉に関する知識・理解」
- ② 医療・介護・福祉に関する事務処理、情報管理の技術、接遇・応対等の技能を身につけ、職員・利用者間での円滑なコミュニケーションをサポートできる「医療・介護・福祉に関する技能」

「食育」科目群の学修成果

- ① 「栄養の教育・指導に関する知識・理解」
- ② 「栄養の教育・指導に関する技能・表現」

「食のデザイン」科目群の学修成果

- ① 「給食の運営と食のデザインに関する知識・理解」
- ② 「給食の運営と食のデザインに関する技能・表現」

「地域とキャリア」科目群の学修成果

- ① 「地域課題解決力」
4. 食と医療の現場に起こる問題に臨機応変に対応し、新たな問題に対し自主的に問題解決に取り組むことが出来る、創造的思考力を持った人材を育成するために、学外実習科目および卒業研究を配置する。
5. 高校での学びと大学での学びをつなげる初年次教育の科目として、共通教養科目群の「基礎演習」を1年前期に配置し、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを実践できるようにする。
6. 自らのキャリアを主体的に形成する態度を身につけるキャリア教育の科目として「キャリアデザイン」を

専門科目群に配置する。

7. 地域に関する学修を含む科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
8. 実務家教員による授業科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
9. 各科目が修得を目指す学修成果をカリキュラムマップに明示する。
10. 学生が年間に履修登録できる単位数に上限を設け、課程外での学習時間を確保して単位の実質化を図る。

○ 教育方法

1. シラバスに、関連するDPと学修成果、アクティブラーニング、地域の学修、授業の概要とキーワード、実務経験と授業内容、学生の到達目標、授業のテーマ及び内容、授業計画、評価の割合と観点、教科書及び参考書、課題・試験等のフィードバック、予習・復習の内容と時間、免許・資格、受講要件、オフィスアワーを明確に示し、周知する。
2. 学生の主体的な学びを促すために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。
3. 学内 Wi-Fi 及び Google Classroom の利用により、ICT を活用した教育方法を積極的に取り入れる。
4. 多様なメディアを高度に利用した授業科目を配置し、30 単位を超えない範囲で、教室等以外の場所で履修することを可能にする。
5. 学修成果可視化システムを用いた学修ポートフォリオにより、学生は学修成果の到達状況を自己評価すると共に、学修計画の振り返りと目標設定を行う。

III. 学修成果の評価

本学科専攻の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果の修得状況を、本学のアセスメントポリシーに規定する以下の方法により把握し、評価する。

- ① 成績評価のガイドラインに基づき設定された、各科目のシラバスに示す評価方法と配点比率に基づく成績評価
- ② GPA
- ③ 単位修得状況
- ④ 学修ポートフォリオ
- ⑤ 学生生活調査の結果
- ⑥ 資格・免許取得状況
- ⑦ 卒業率・学位授与数
- ⑧ 就職率・進学率・就職先
- ⑨ 公務員採用試験合格者数
- ⑩ 栄養士実力認定試験の結果

【保育科】

保育科では、本学科の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で明記している人材の育成のために、以下の方針で教育課程(カリキュラム)を編成・実施する。

I. 教育課程編成の方針

1. 本学科の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果を身に付けるため、共通教養科目、専門教育科目を体系的に編成し、講義・演習・実技・実験・実習科目を適切に組み合わせた授業科目を展開する。
2. 共通教養科目群に、「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」「地域を支える力」の4領域を設ける。
3. 専門教育科目群に、「保育の本質・目的」「対象の理解」「保育内容」「保育の指導法」「キャリア」「実習」「総合演習」「卒業研究」の8領域を設ける。
4. 専門科目群に、教職課程(幼稚園教諭)及び保育士養成課程のカリキュラムを設ける。
5. 全ての科目には科目ナンバリングコードを割り当て、カリキュラムツリーと共に、各科目間の体系性を分かりやすく明示する。
6. 1年次前期を「基礎力の育成」、1年次後期を「専門力の育成」、2年次前期を「実践力の育成」、2年次後期を「総合力の育成と評価」の時期とし、適切な科目を配置する。

II. 教育課程実施の方針

○ 教育内容

1. 共通教養科目群の領域「信愛のこころ」「社会を見通す力」「人とつながる力」の科目群では、キリスト教の愛の精神に基づいて、一人ひとりを大切にできる豊かな人間性と高い教養を兼ね備え、地域社会で幅広く活躍する女性に必要な以下の学修成果の修得を目指す。

「信愛のこころ」科目群の学修成果

- ① 本学の建学の精神の理解を通して、キリスト教的価値観に基づく愛の実践を身に付け、自他共に一人ひとりを大切にできる「キリスト教的倫理観」

「社会を見通す力」科目群の学修成果

- ① 多様な視点と広い視野を身につけ、未知の事態や新しい状況に的確に対応していくことができる「教養・知性」
- ② 多様な課題を正しく把握・分析し、適切な解決策を立てて実行できるとともに、その結果を検証し、計画の見直しや次の計画に反映することができる「論理的思考力・問題解決力」
- ③ 課題解決のために、情報通信技術(ICT)を用いて、多様な情報を収集・分析し、モラルに則って適切に活用することができる「情報収集・分析力」

「人とつながる力」科目群の学修成果

- ① 多様な考えや文化的背景を持つ人々との関わりの中で、相手の主張を聞き入れ、その気持ちを理解できるとともに、自分の考えや思いを明確に伝え、有効な人間関係を築くことができる「コミュニケーションスキル」

2. 共通教養科目群の領域「地域を支える力」と専門教育科目群では、地域社会の一員としての自覚と責任感を有し、真摯な姿勢と高いコミュニケーション能力で、地域をとりまとめ、リーダーシップを発揮できる社会人に必要な以下の学修成果の修得を目指す。

- ① 地域社会の一員としての意識を持ち、地域の発展のために積極的に貢献できる「地域課題解決力」
- ② 周囲の人々と良好な人間関係を構築し、協調・協働して物事を行うことができるとともに、時にはリーダーとして周囲をまとめ、目標実現に向けた方向性を示すことができる「チームワーク・リーダーシップ」
- ③ 自律・自立して学び続ける態度を身に付けるとともに、自らを律して行動できる「生涯学習力と自己管理力」

3. 専門教育科目群では、保育の現場で活躍する職業人に求められる、以下の学修成果の修得を目指す。

「保育の本質・目的」科目群の学修成果

- ① 保育者としての自覚を持ち、一人ひとりの子どもの心身の成長と発達に最も必要なことを見据えた上で子どもや保護者に接することができる「教育的愛情」

「対象の理解」科目群の学修成果

- ① 多様な生活背景を持つ個別的な存在として、子ども一人ひとりの目線に立って、個々の違いに配慮しながら対応ができる「子ども理解」

「保育内容」科目群の学修成果

- ① 各要領・指針に示されたねらいや内容を理解し、子どもが経験し身につけていく内容に応じた指導計画を立案することができる「保育内容の理解」

「保育の指導法」科目群の学修成果

- ① 五領域の保育内容を踏まえた指導計画の立案、実行、改善ができる「保育の指導力」

「キャリア」科目群の学修成果

- ① 「地域課題解決力」

専門科目群を通して総合的に修得する学修成果

- ① 子どもや保護者の気持ちに寄り添い、共感的、受容的な態度で接し、相手の主体性、自己決定を尊重することができる「社会性」

4. 保育現場に起こる問題に臨機応変に対応し、新たな問題に対し自主的に問題解決に取り組むことができる、創造的思考力を持った人材を育成するために、実習科目、卒業研究、保育・教職実践演習(幼稚園)を配置する。

5. 高校での学びと大学での学びをつなげる初年次教育の科目として、共通教養科目群の「基礎演習」を1年前期に配置し、多様な入学者が自ら学修計画を立て、主体的な学びを实践できるようにする。

6. 自らのキャリアを主体的に形成する態度を身につけるキャリア教育の科目として「キャリアデザイン」を専門科目群に配置する。

7. 保育者に必要な人間愛と奉仕の精神をボランティア活動を通して修得を目指す科目として「ボランティア論」を専門科目群に配置する。

8. 地域に関する学修を含む科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
9. 実務家教員による授業科目を積極的に配置し、シラバスに明示する。
10. 各科目が修得を目指す学修成果をカリキュラムマップに明示する。
11. 学生が年間に履修登録できる単位数に上限を設け、課程外での学習時間を確保して単位の実質化を図る。

○ 教育方法

1. シラバスに、関連するDPと学修成果、アクティブラーニング、地域の学修、授業の概要とキーワード、実務経験と授業内容、学生の到達目標、授業のテーマ及び内容、授業計画、評価の割合と観点、教科書及び参考書、課題・試験等のフィードバック、予習・復習の内容と時間、免許・資格、受講要件、オフィスアワーを明確に示し、周知する。
2. 学生の主体的な学びを促すために、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を実践する。
3. 学内 Wi-Fi 及び Google Classroom の利用により、ICT を活用した教育方法を積極的に取り入れる。
4. 多様なメディアを高度に利用した授業科目を配置し、30 単位を超えない範囲で、教室等以外の場所で履修することを可能にする。
5. 学修成果可視化システムを用いた学修ポートフォリオにより、学生は学修成果の到達状況を自己評価すると共に、学修計画の振り返りと目標設定を行う。

III. 学修成果の評価

本学科の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる学修成果の修得状況を、本学のアセスメントポリシーに規定する以下の方法により把握し、評価する。

- ① 成績評価のガイドラインに基づき設定された、各科目のシラバスに示す評価方法と配点比率に基づく成績評価
- ② GPA
- ③ 単位修得状況
- ④ 学修ポートフォリオ
- ⑤ 学生生活調査の結果
- ⑥ 資格・免許取得状況
- ⑦ 卒業率・学位授与数
- ⑧ 就職率・進学率・就職先
- ⑨ 公務員採用試験合格者数